

H29 (2017) .08.24 (木)

平成29年度千葉県「開かれた学校づくり」研修会
千葉県教育委員会主催
@千葉県教育会館 新館大ホール

地域とともにある学校づくり
コミュニティ・スクールから
スクール・コミュニティへ

一般社団法人 教育デザイン研究所 代表理事
玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授
東京都新宿区立四谷中学校 前校長
東京都町田市社会教育委員会議議長 同生涯学習審議会委員長
吉田和夫

縁と運と偶然 連鎖する人生



- 地域の公立小学校から都立中高一貫校へ
- 工業高校から予備校を経て文系の大学へ
- 心理学・教育学・哲学を経て言語・国語の教育へ
- 千葉県(茂原・船橋)8年間 教師の基礎を学ぶ
- 父の死で東京都へ 困難校で生活指導、保護者要求で学習指導
- 国語授業の行き詰まりで、上越教育大学大学院へ
- 米国での経験(ミネソタ州中心に6か所HS)と英語系国語修士論文
- 管理職 指導主事として東京都品川区へ 教育改革担当で5年
- 都指導主事2年で、教頭・副校長へ(杉並・民間人校長との遭遇)
- 八王子市で校長3年、新宿区四谷中で校長3年 各CS経営を経験
- 学校教育と社会教育・学校選択制・地域連携・民間人校長・地域文化と地域DNA・ライフマネジメント・生涯学習審議会・国語と英語等
- 人生万事塞翁が馬 ピンチはチャンス 失敗は成功のもと
- シンクロニシティ(共時性) セレンディピティ(幸福な偶然)

はじめに

- お世話になった千葉県、今も担当は千葉県！
- 地域と学校の連携・協働 永遠の課題！
- 学校支援と地域支援 学・家・社・民の協働
- 学校づくり、地域づくり、人づくりの連鎖
- 「実情に応じた活動及び企画・運営」の具体
- 学校(児童・生徒・教員)も、地域の人も、元気に！
- **私の戸惑い 疑問と不安 私の立場は？**
 - なぜ、あの学校は活気に満ちているのか？
<http://www.toyokan.co.jp/book/b193953.html>
 - なぜ、あの先生は誰からも許されるのか
<http://www.toyokan.co.jp/book/b107891.html>
 - 「社会教育」(日本青年館) <http://social-edu.com/magazine/y2017/y1708.html>₃
 - 「プリンシパル」(学事出版) <http://www.gakuji.co.jp/magazine/principal/>

周りの人との自己紹介

- 向こう三軒両隣 本日の学びの友(前・右・左)
- そこに座った偶然 縁や絆の始まり
- 自己紹介 自分の立場・役割の簡単な紹介
- 2分程度で相手と交代
- 2分は、相手の話をしっかり聞く(聴く・訊く)
- 質問できるように訊く 時間内での質問も可
- 名刺があればそれを渡すのも可(教員も名刺を)
- 気が合ったら友達に 後で連絡(Facebookなど)
- 人との出会いが人生を変える!(かも?)

平成28年度「開かれた学校づくり委員会の課題

「実情に応じた活動及び企画・運営」が課題

- 効果的な広報の方法(ホームページ、回覧板、掲示板、など)
- 地域人材の発掘
- 計画的な運営、継続性、発展性
- 地域での関係をより深める方法
- 十分な話し合いのための時間確保
- 各種行事やイベントへの生徒の関わり方(事後フォローも含む)
- 予算や人員面の不足
- 防災拠点としての現実的な運営
- 生徒・教職員の過度な負担(土日活動が多くなる、部活動の調整)
- 多くの方が主体的に関わる(保護者、行政、地域、近隣の学校、等)
- マンネリ化した活動の活性化(新たな企画の創出)

※ これらの課題は「解決できる問題」なのだろうか？

今、学校教育の質的転換が必要

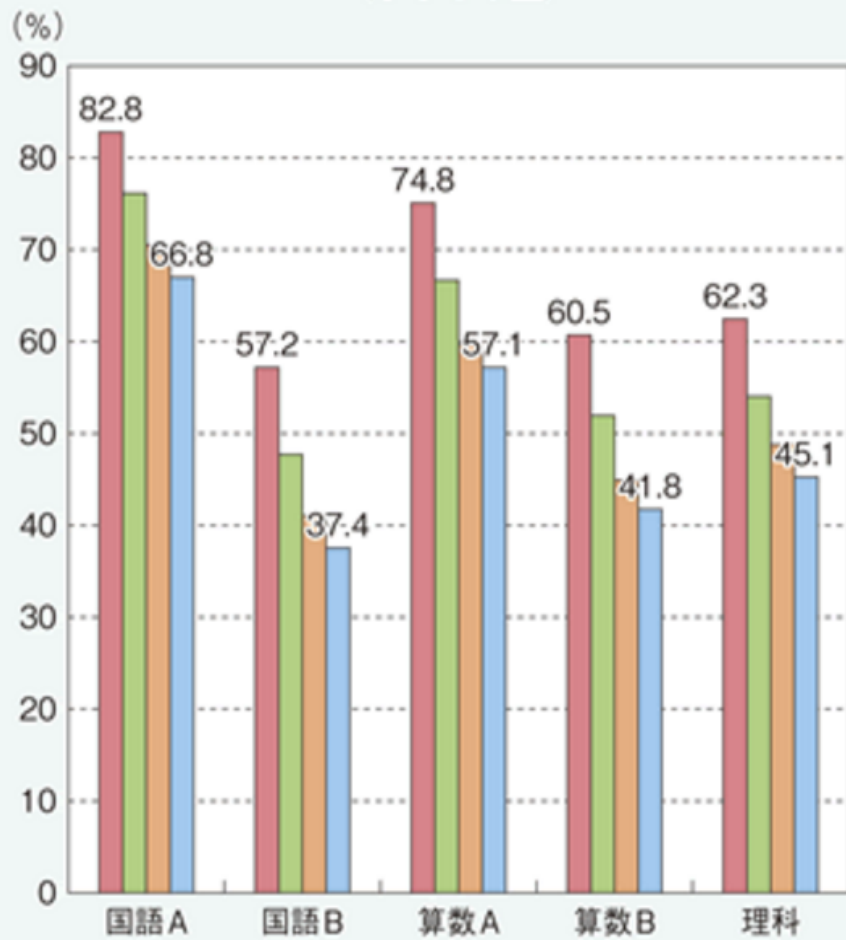
- 地域と家庭、個人と社会の分断・孤立化への対応
- 学区と教育コミュニティ 学校統廃合の課題
- 学校教育だけでは解決・対応できない課題・現実
- 学校・家庭・地域の関係 学校はサービス業？
- 学校教育の役割の肥大化 教員の多忙化と疲弊
- ボランティアによる学校支援 その功罪
- 中核となるコーディネーターの役割 その重要性
- コーデネーターの在り方や資質・力量の課題
- 適切な研修(学び合う)の場と機会の必要
- **地域に開かれた学校⇒社会に開かれた教育課程**

学力・能力に影響する家庭教育資本

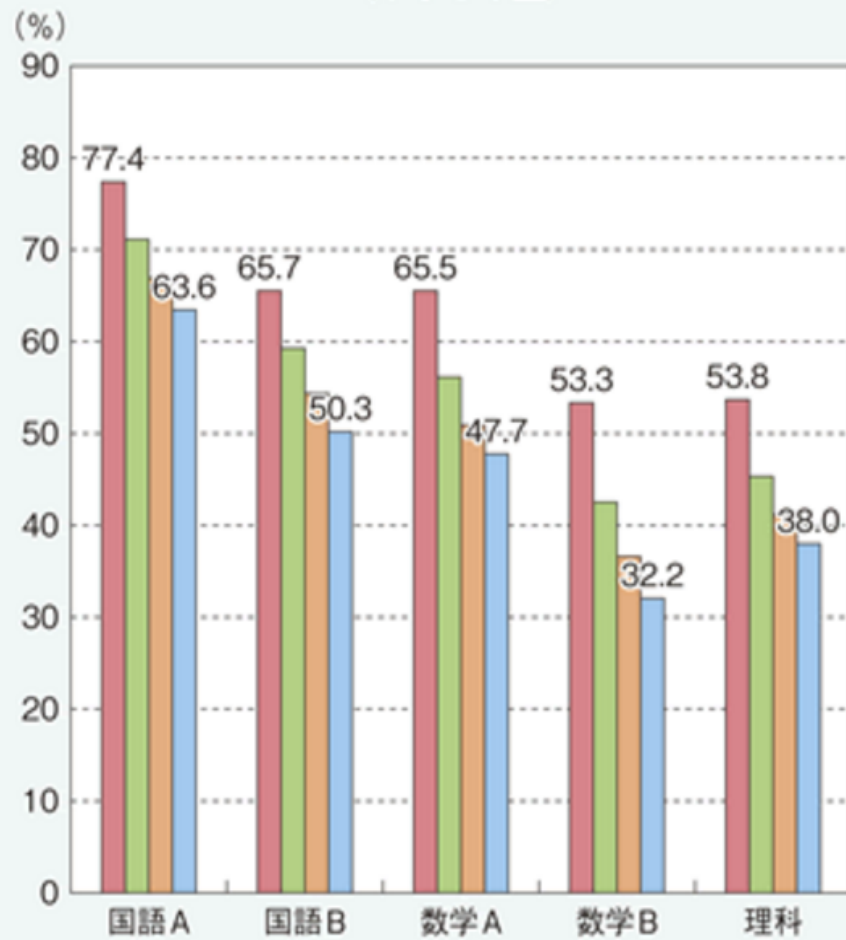
図表 2-2-6

朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係

〈小学6年生〉



〈中学3年生〉

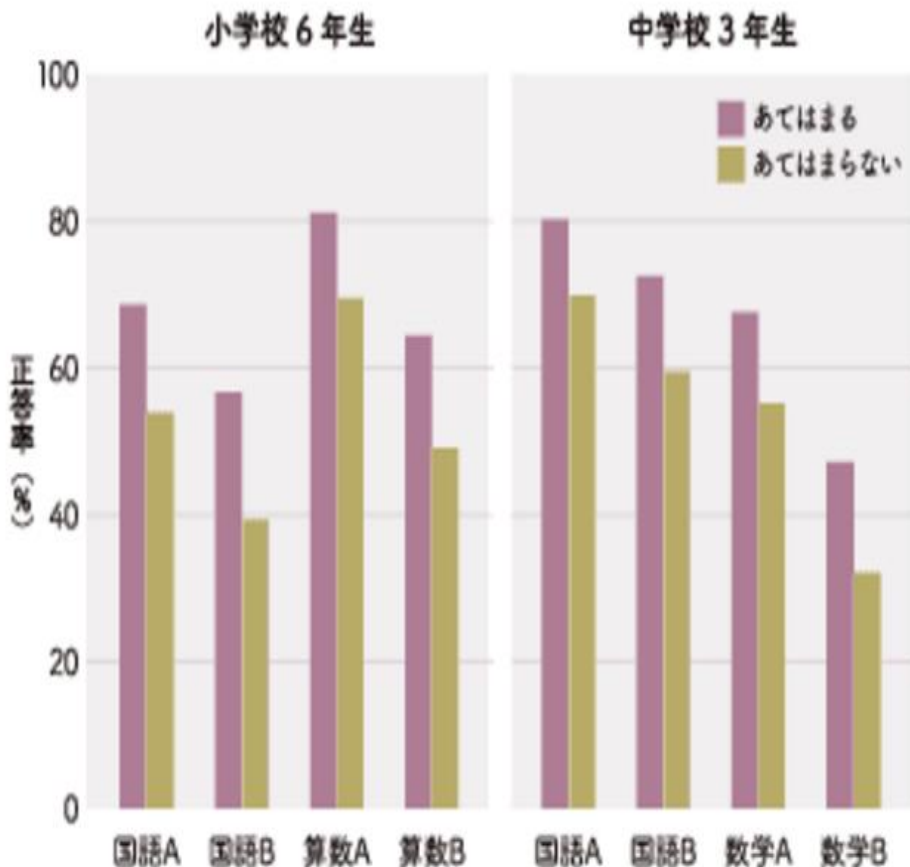


毎日食べている どちらかといえば、食べている あまり食べていない 全く食べていない

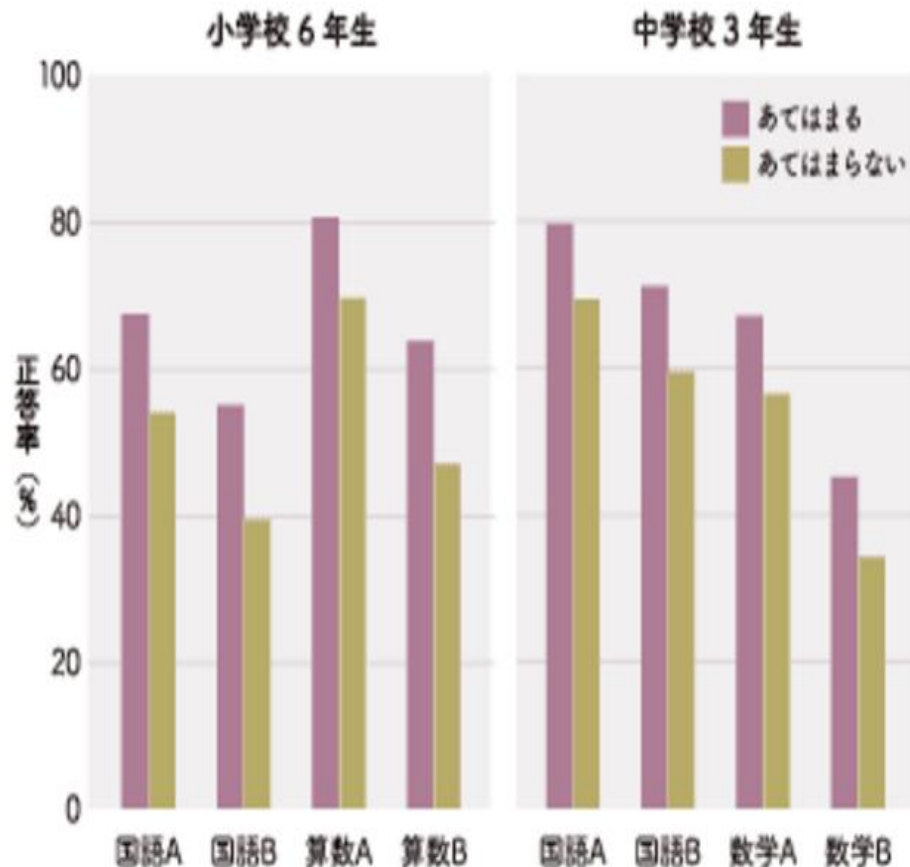
(出典) 文部科学省「平成24年度全国学力・学習状況調査」より作成

読書と学力の関係 3 (H28)

図表1 子どもに本を読むようにすすめている親と子どもの学力の関係



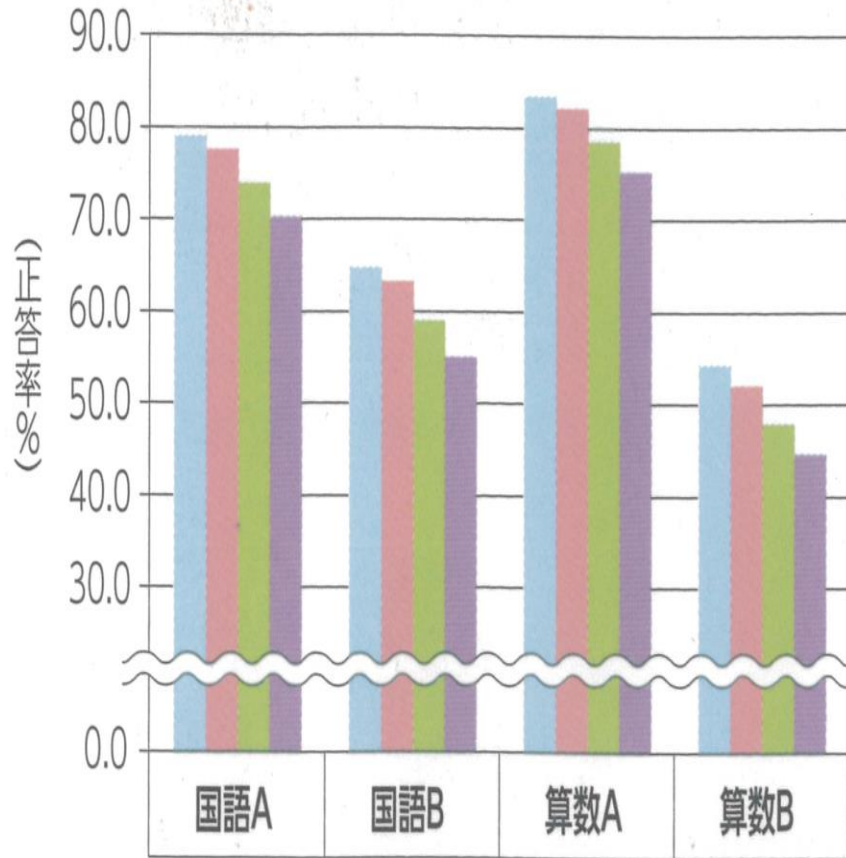
図表2 子どもが小さい頃読み聞かせをした親と子どもの学力の関係



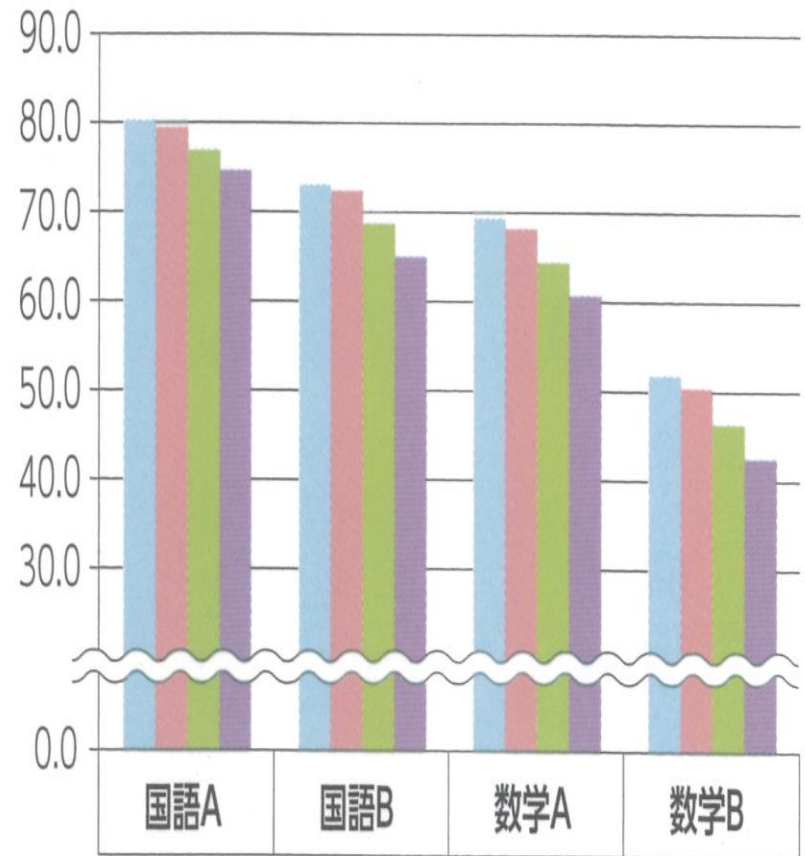
注：子どもの読書の習慣について尋ねた質問票のなかから、親が「あてはまる」と回答した群と「あてはまらない」と回答した群について、その子どもの全国学力学習状況調査の国語、算数（または数学）の正答率をグラフ化したもの

新聞と学力の関係(H28)

新聞を読んでいますか



小学校



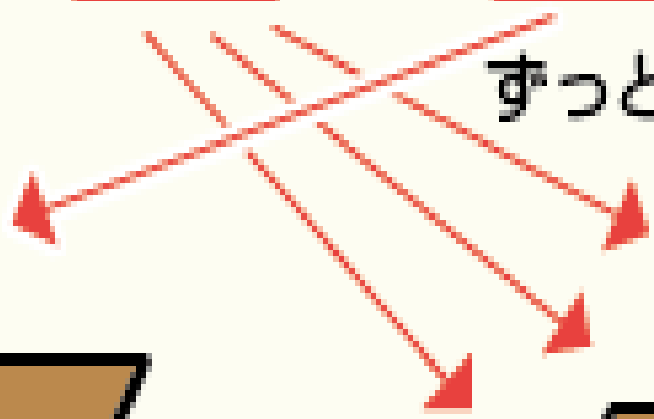
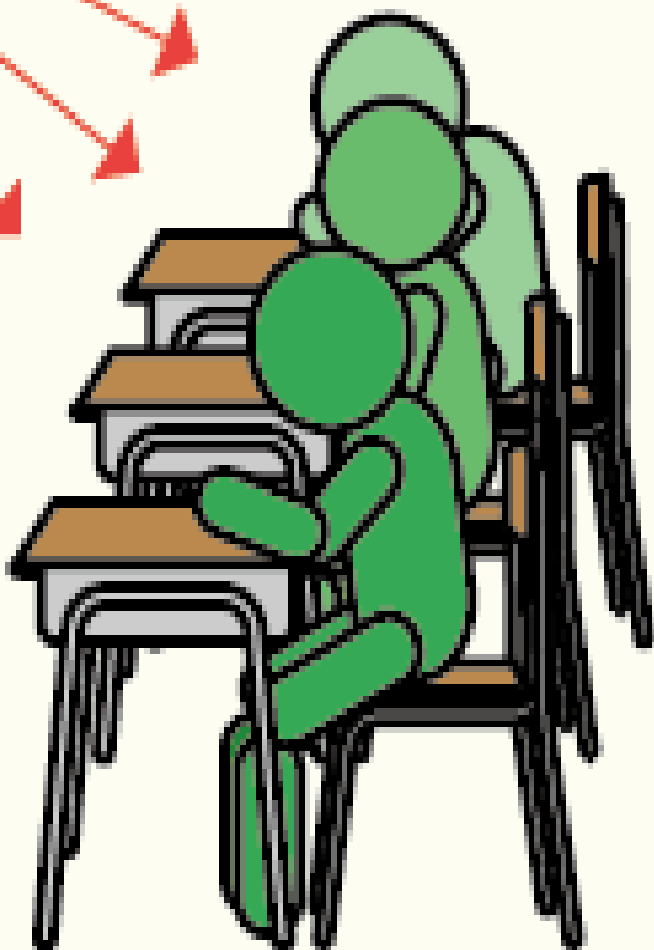
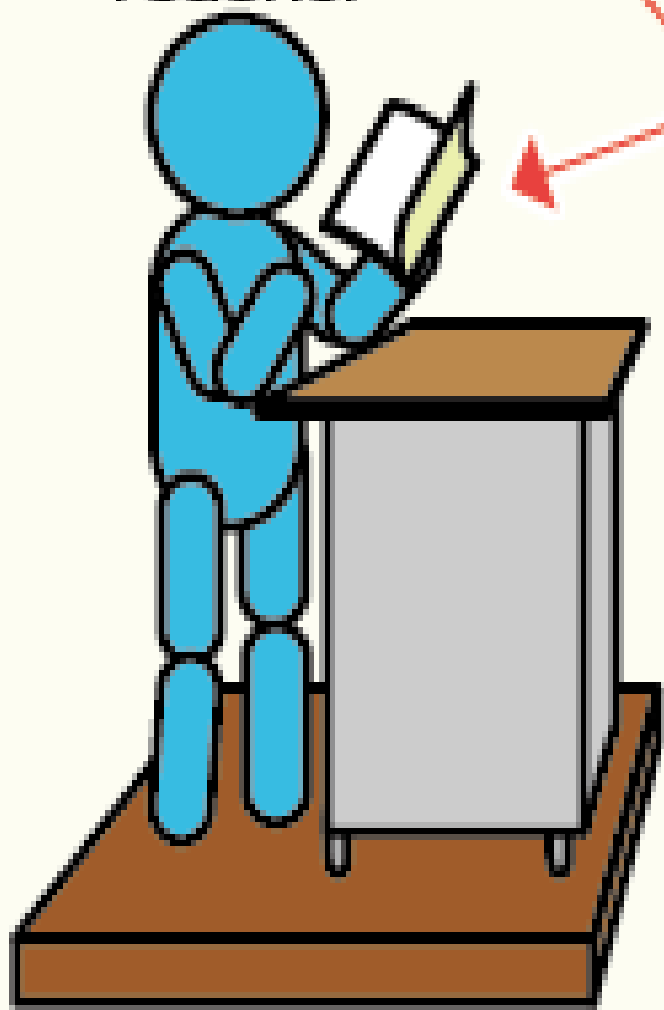
中学校

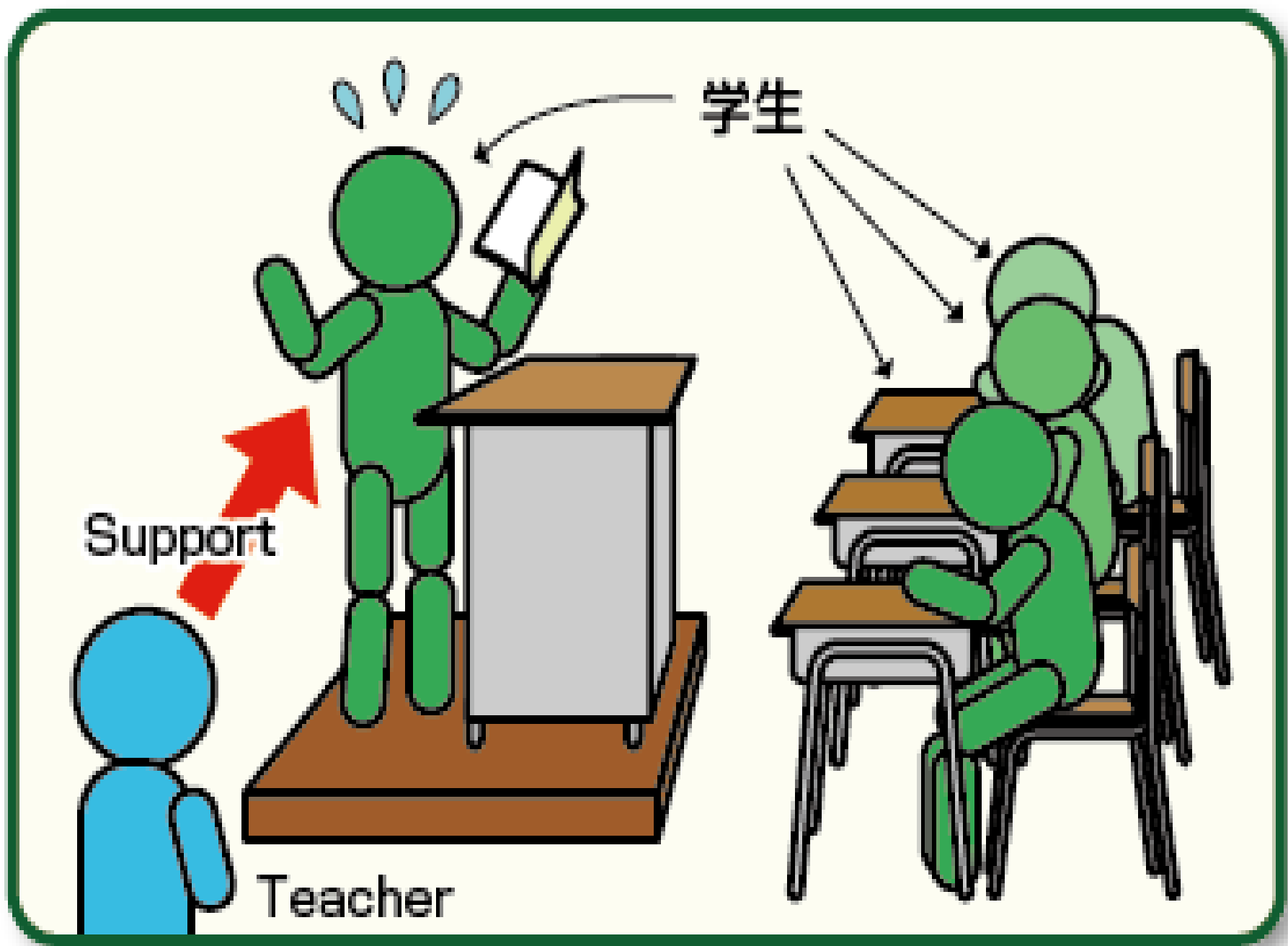
■ ほぼ毎日読んでいる ■ 週に1~3回程度読んでいる ■ 月に1~3回程度読んでいる ■ ほとんど、または、全く読まない

Teacher

実はこっちよりも こっちの方が

ずっと勉強になっている



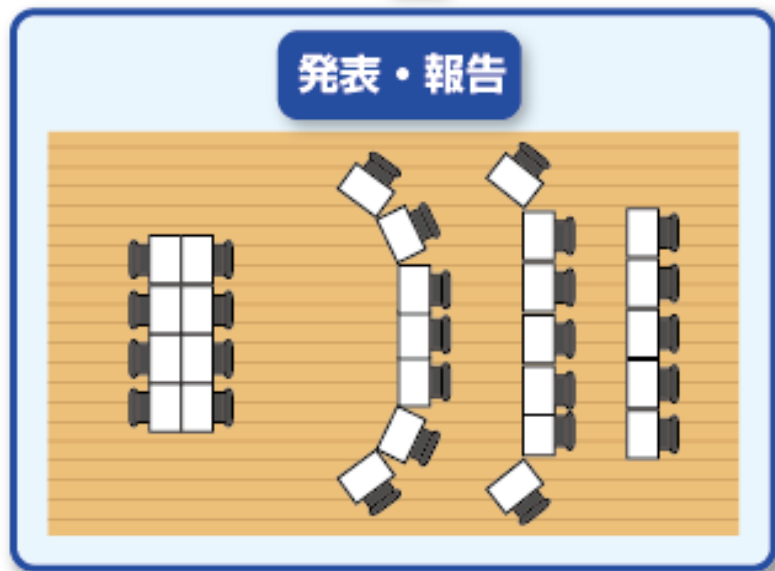
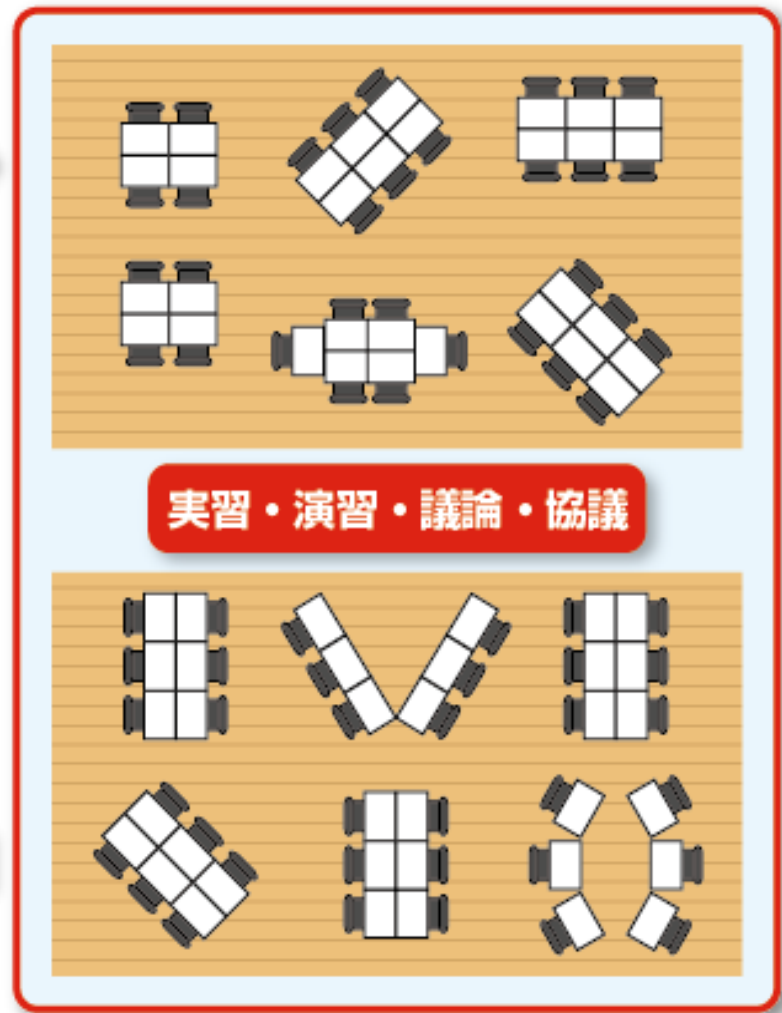
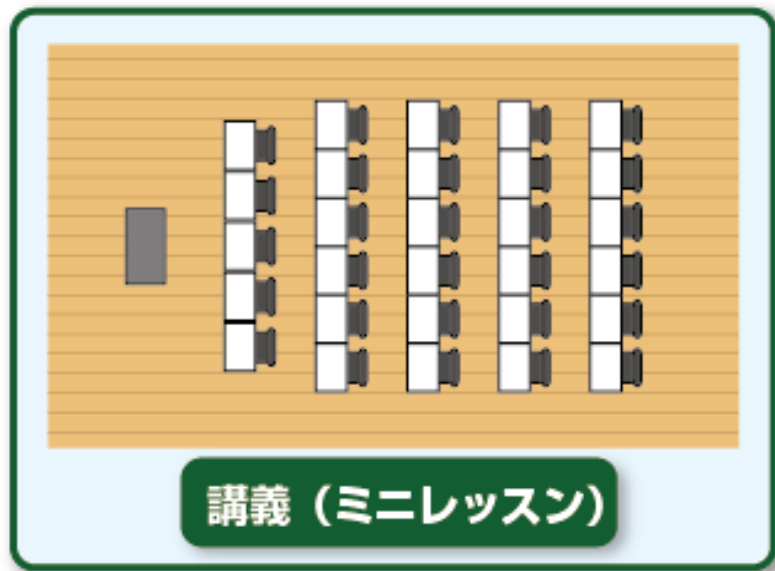


Support

Teacher

学生





1.前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	物事に進んで取り組む力
	②働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	③ 実行力	目的を設定し確実に行動する力
2.考え抜く力 (シンキング)	④ 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	⑤計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	⑥創造力	新しい価値を生み出す力
3.チームで 働く力 (チームワーク)	⑦発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	⑧傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	⑨ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	⑩状況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力
	⑪ 規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	⑫ ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

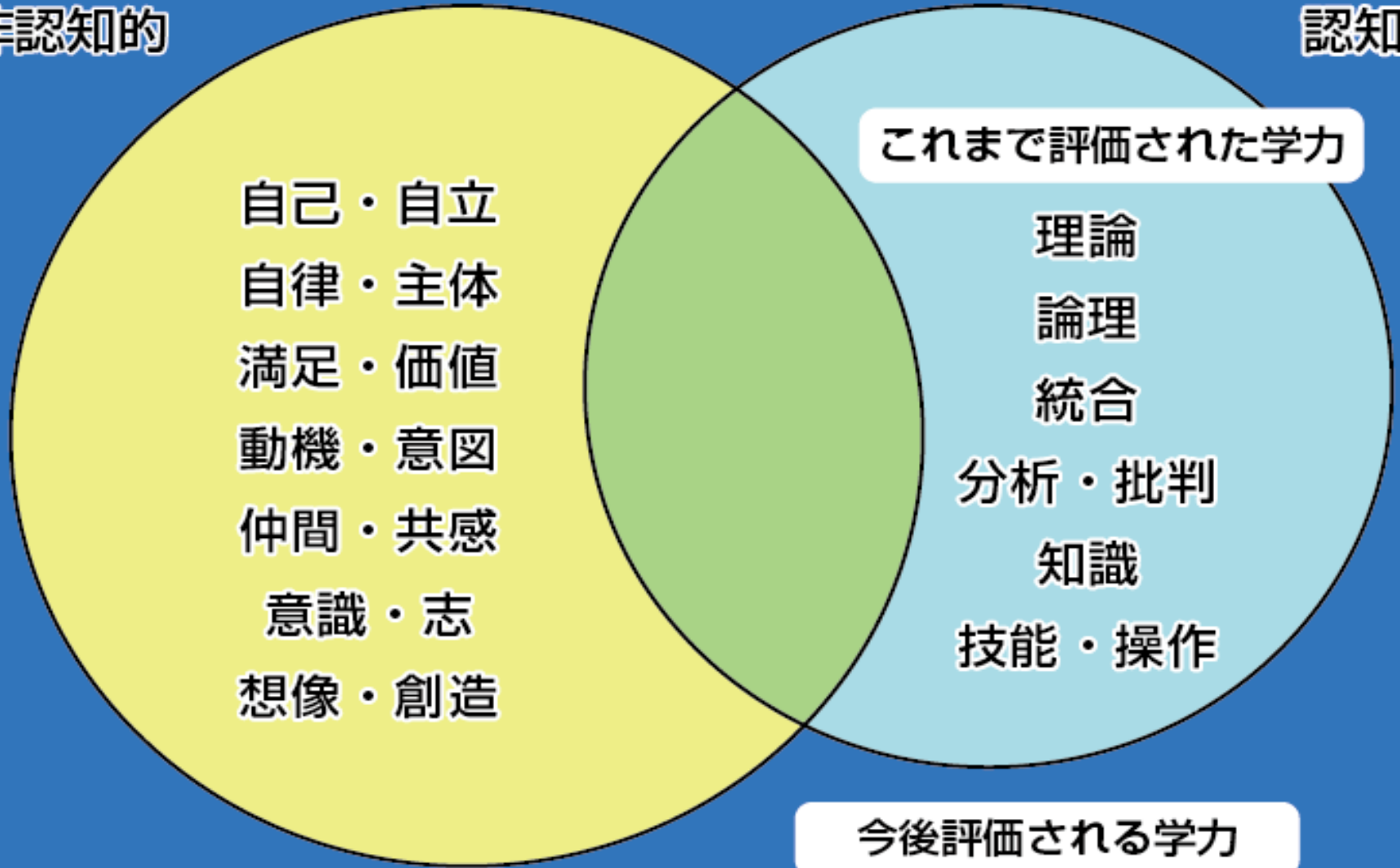
真正(多面的)な学力＝非認知的能力の重視

「多面的な」学力の意義

Authentic(真性)

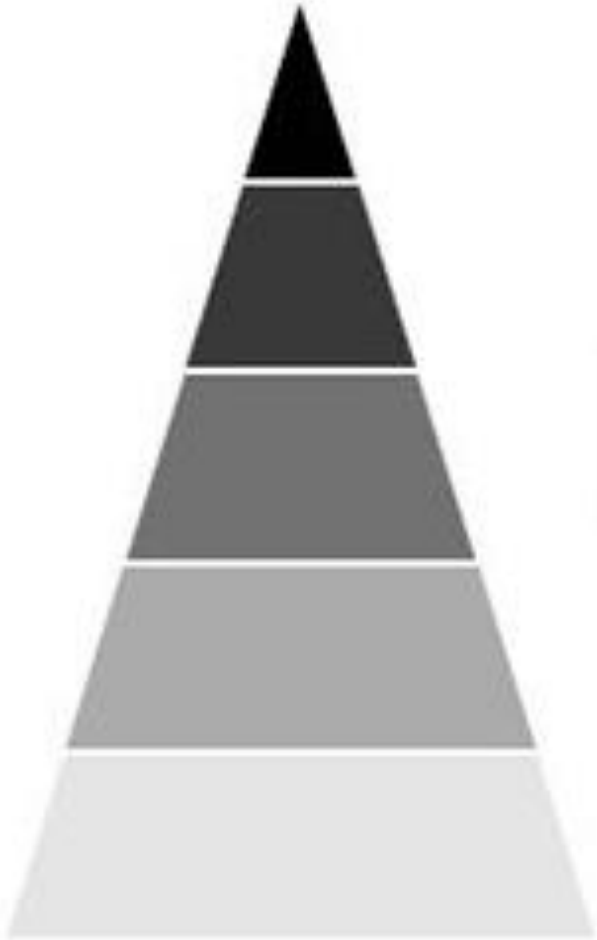
非認知的

認知的

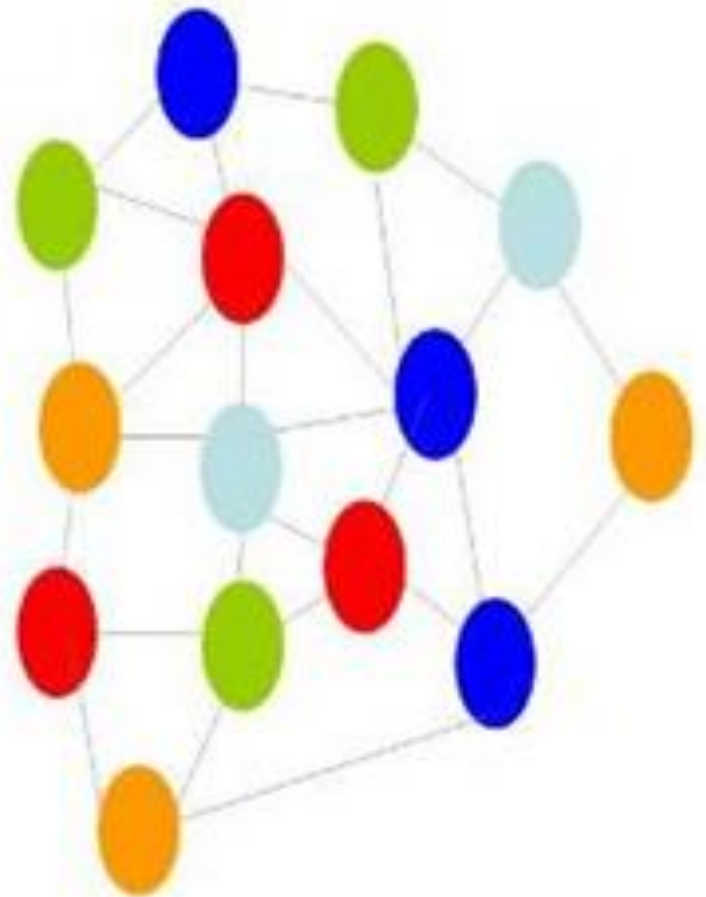


学校の役割の変化

ピラミッド型

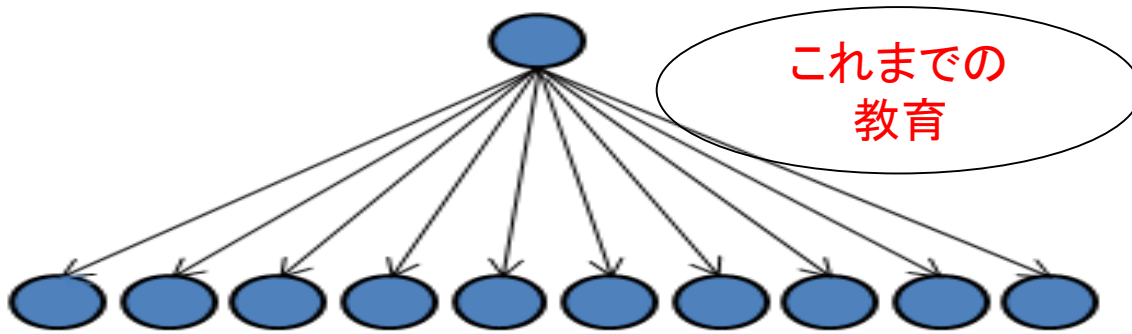


ネットワーク型



組織や知の在り方 変容と対応

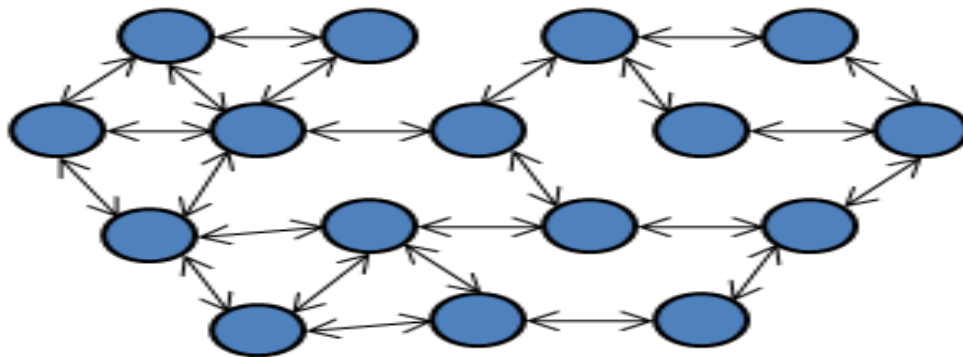
マスメディア



これまでの教育

これからの教育

ソーシャルメディア



- 一斉授業・講義型授業・伝達型講習の限界
 - SNS (Social Networking Service) 的効果
 - 一斉的指導も効率的かつ役立つ時もあるが…。
- ★ 知識の一方向的伝達から、課題解決に向けて、相互交流的な活動により「最適解」の発見・獲得へ(アクティブ・ラーニング)

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、途末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

育成を目指す
資質・能力

主体的・対話的
で深い学び

各教科等の
「見方・考え方」

学校段階間の接続
(幼・小・中・高・特別支援学校)

次期学習指導要領
のキーワード

カリキュラム・
マネジメント

社会に開かれた
教育課程

プログラミング
教育

外国語教育

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

ICTを活用した授業

授業改善のための
キーワード

教師の
資質・能力

外部人材との連携
(地域の人的・物的資源の活用)

学習評価の充実

学級経営の充実

次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめより

主体的・対話的で深い学びへの対応

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

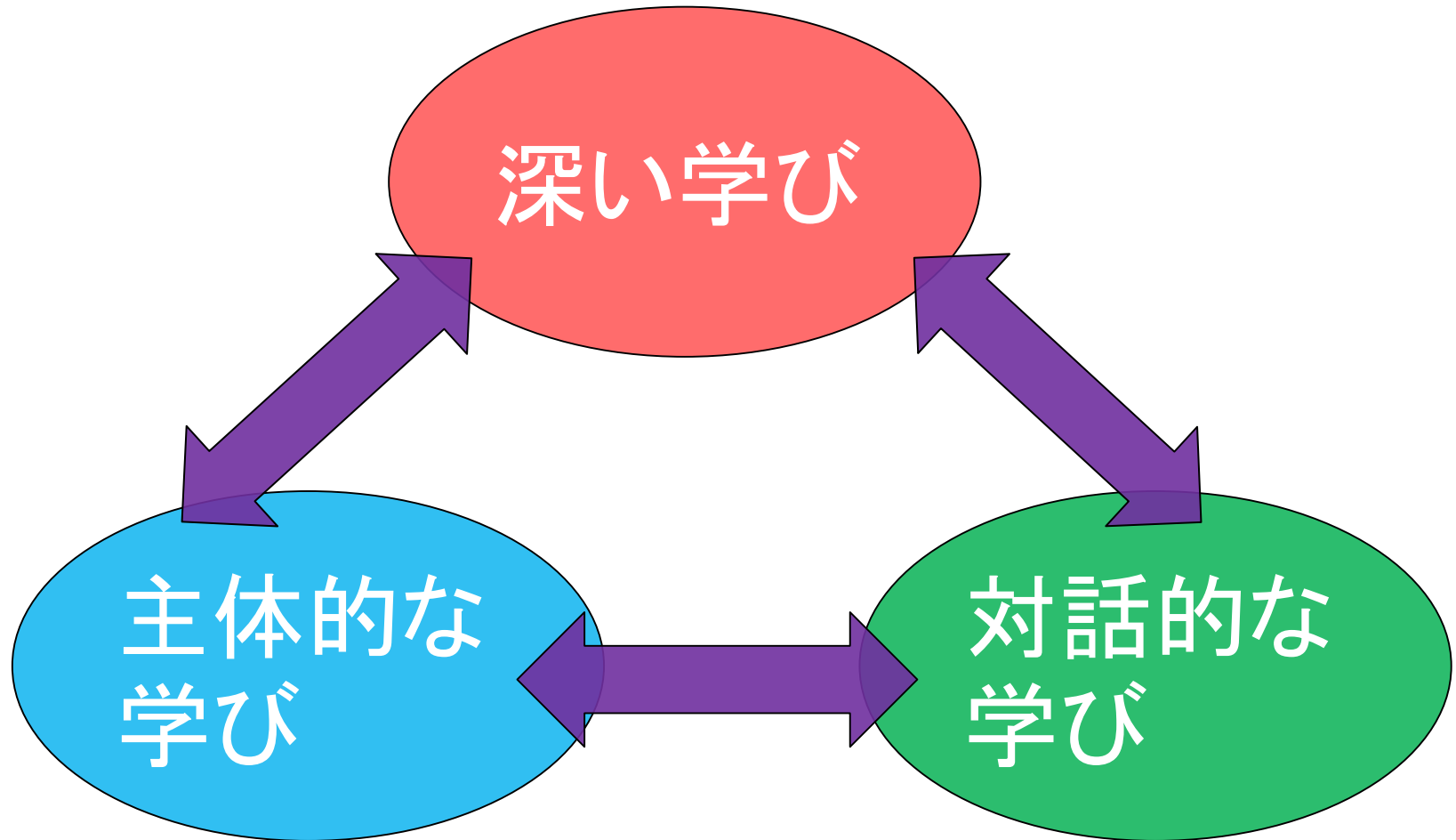
【対話的な学び】

子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学びの実現



相互補完的・合目的的・立体的な構造による学び

社会教育・生涯学習との関連

1. 探究的・課題解決型の学び

「正解」でなく「最適解」を探す

2. 主体的な学び

意と自の学び 楽しく創造的に

3. 対話的・協働的な学び

学習者の関係による深化

4. 「深い学び」

教科の本質や特性に基づく学び 見方・考え方

5. 振り返り(Reflection)のある学び

何ができるようになったかの確認と共有

自律と意思の学習へ

活動的学習

他律型－活動的学習

指導者の意図に従って活動
(対話・協働など)を通して学ぶ

表現的

自律型－活動的学習

学習者の主体的意思に基づき活動(対話・協働など)を通して学ぶ 能動的学習
「為すことにより学ぶ」

読書活動
プログラミング学習

させる学習

する学習・し合う学習

他律型－静的学習

指導者の意図に従って、その意図に沿って学ぶ
教師が聞かせる・書かせる・解かせるような学習

理解的

自律型－静的学習

指導者と意図を共有し、学習者も内的動機を伴って学ぶ 課題に関心を持ち、自主的・探求的に聞いたり、読んだりする学習

読書
プログラミング

静的学習

他律型学習

自律型学習

私が現在考えていること

1. プロジェクト型学校経営(拙著)
2. 地域との連携・協働の在り方(具体的な姿)
3. 学校力強化とミドル・マネジメントによる学校経営
4. エンパワースメントによる人材育成
5. 個人エンパワースメントとチーム・エンパワースメント
6. 認め合い・分かち合い・助け合う関係構築(拙著)
7. 「児童・生徒の成長が教師の成果」の徹底(評価)
8. 短期・中期・長期的な視点での戦略構築
9. 「主体的・対話的で深い学び」実践(児童・生徒)
10. スクール・コミュニティの形成

新しい学校経営と プロジェクト型分掌組織

<http://www.shinjuku.ed.jp/jh-yotsuya/bcd44353.pdf>

なぜ、あの学校は活力に満ちているのか？
—プロジェクト型経営のススメ—

キャリア教育
系

生活指導
系

学習指導
系

特別委員
会

学校経営・
運営系

プロジェクト型・ミドルマネジメント型学校経営

学校全体のプロジェクトと各系のプロジェクト

対話・協働・変革による
学校経営・教育経営

学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める

5の
経営方針

プロジェクトA
キャリア教育系

ライフプランの立案

重点目標

- キャリアプログラム開発と進路ノートの作成
- 「四谷学」の再構築
- 健康・体力の向上と食育の推進

プロジェクトB
生活指導系

豊かな心と
社会性の育成

重点目標

- 社会性の育成(ソーシャル・スキル・トレーニング)
- 人権感覚と思いやりの心の育成
- 「あじみそマモル」の実現

プロジェクトC
学習指導系

学力と学習意欲の向上

重点目標

- コンピテンシー(できる力)の育成
- 学習意欲・学習習慣の形成
- 各教科での言語活動の充実

課題探求型

地域協働

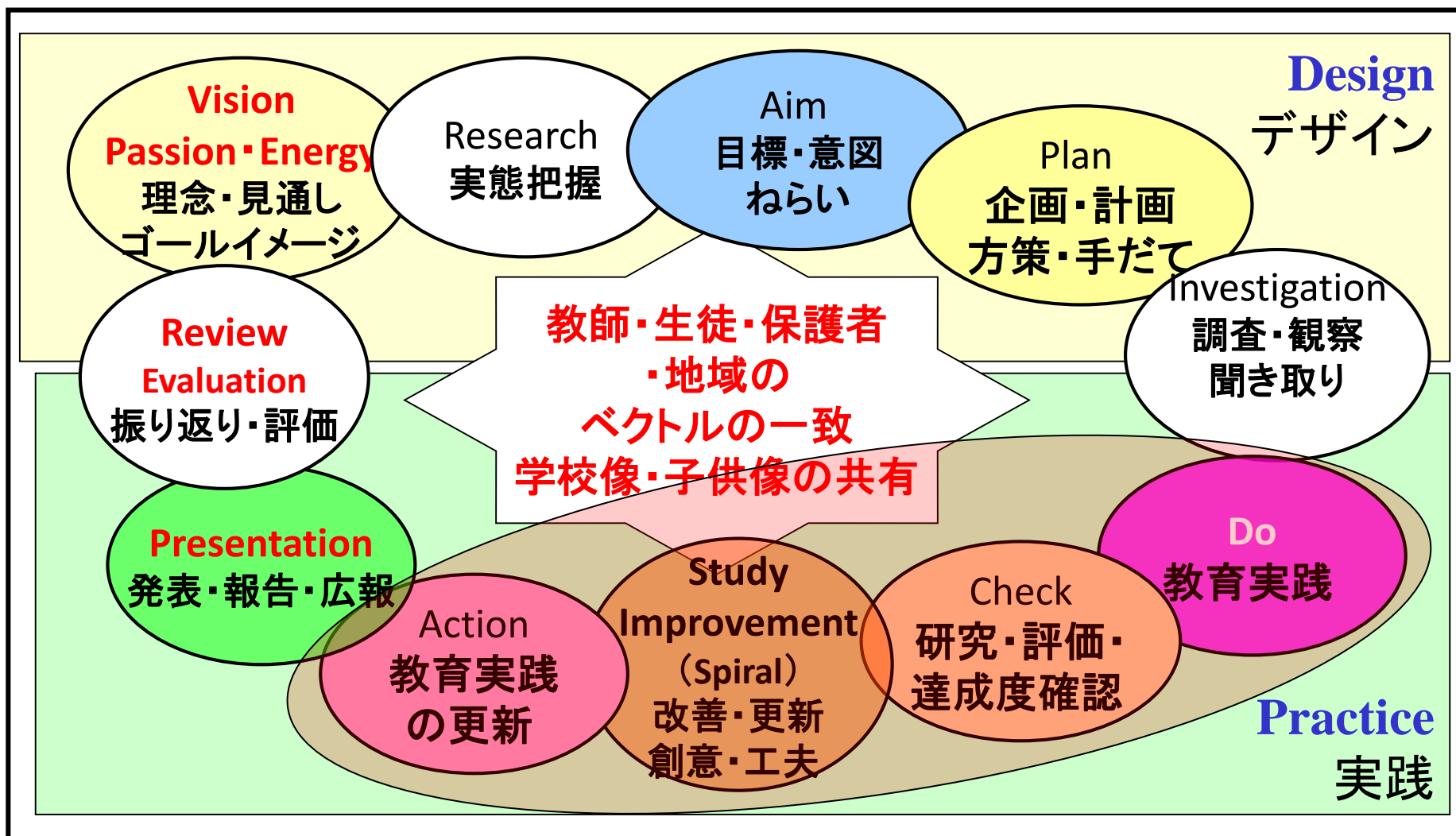
言語活動

自主・自律

能力育成

プロジェクトの成果は生徒の変容で示す

マネジメントのための新PDCA

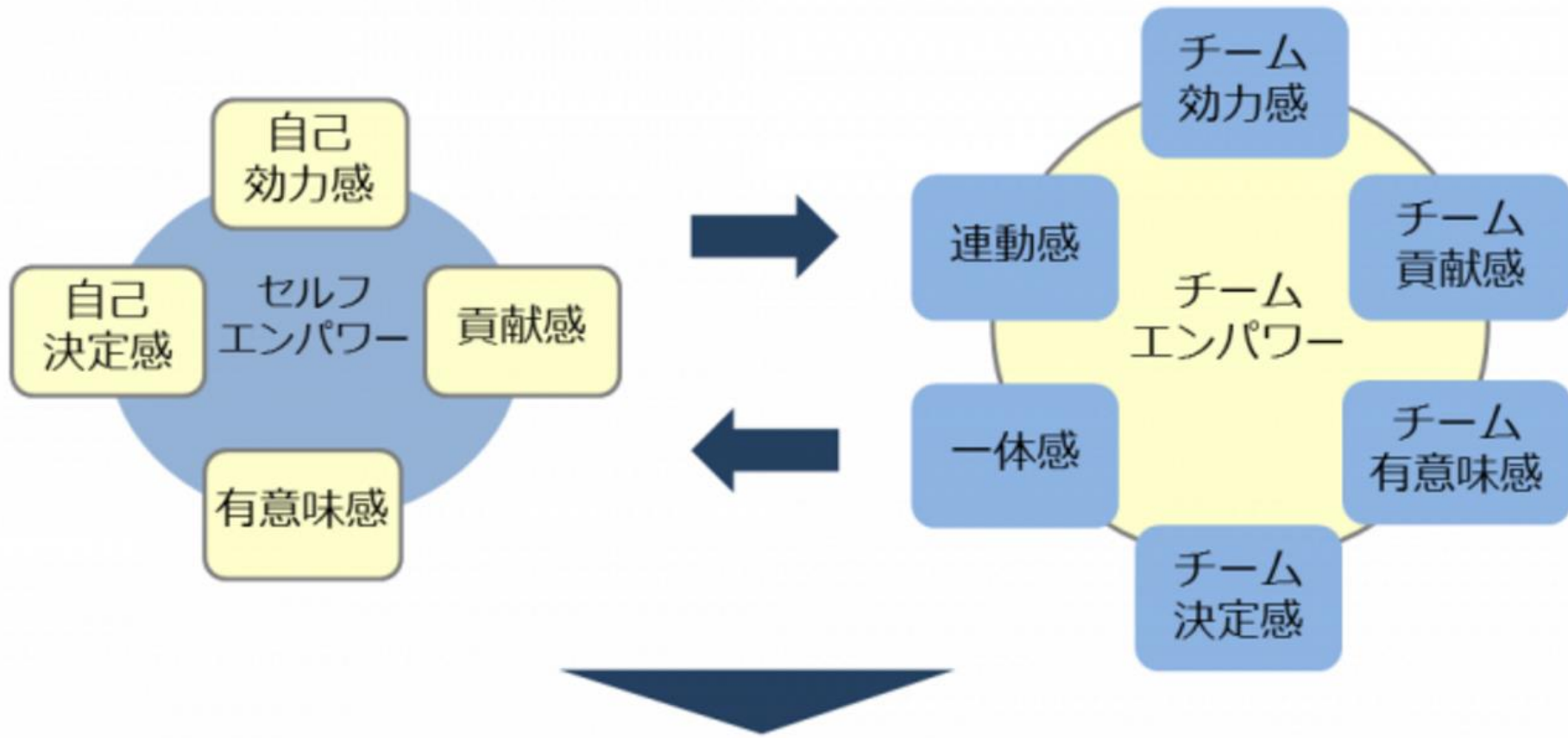


あらゆる教育行為の経営(マネジメント)で、このサイクルが活用できる。

セルフ・エンパワメントと チーム・エンパワメントの関係

個人の「年輪モデル」

チームの「年輪モデル」



組織として年輪づくり
組織マネジメント改革

認め合い・分かち合い・助け合う 関係の構築

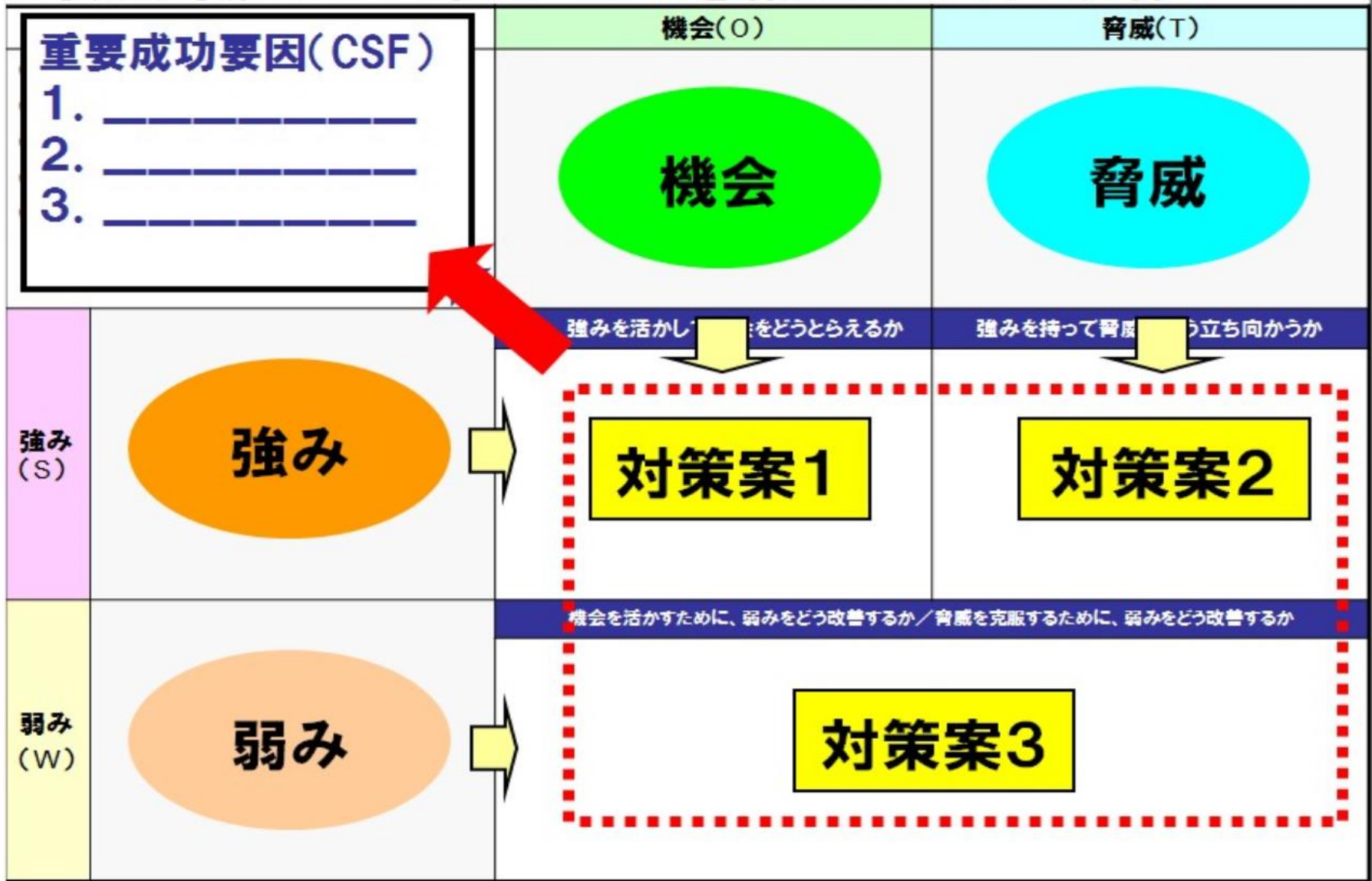
- 実は、みんなそんなに強くない・・・
- そもそも人は・・・ この後、何をいれますか？
- 人が何と言っても、やはり「高い自己評価！」を
- 強みを活かすこと 弱みをカバーすること
- 一番、優れた人は学び続け、歩み続ける人
- 面従腹背と居直りのススメ
- 学校は短期的な成果主義とは相いれない
- 「なぜ、あの先生は誰からも許されるのか？
—同僚・上司、子ども・保護者と上手につき合う—」

強みと弱みのSWOT分析

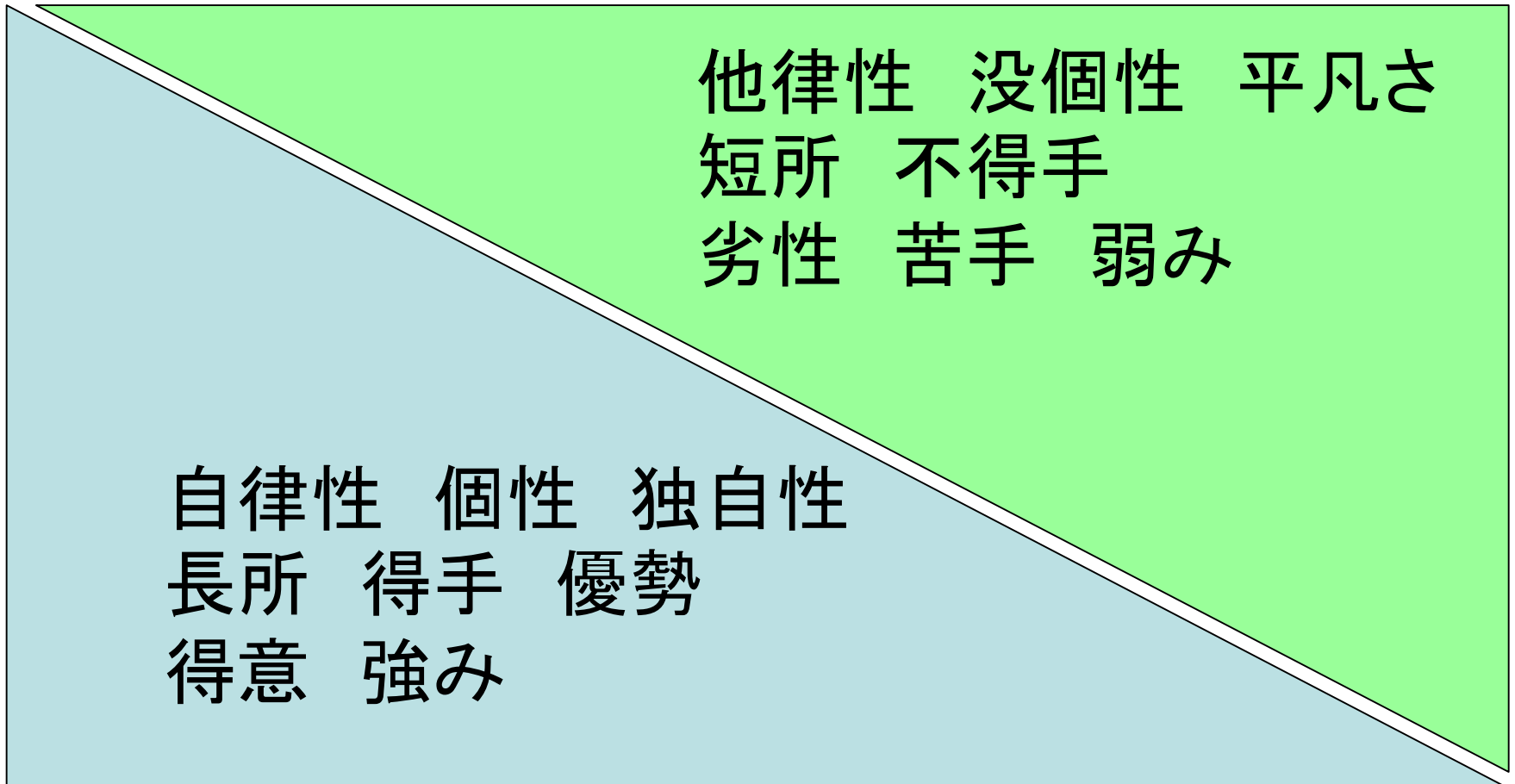
	内部環境	外部環境
プラス面	強み Strength	機会 Opportunity
マイナス面	弱み Weakness	脅威 Threat

強みを中心に戦略を立てる

重要成功要因(CSF)の抽出 SWOTを活用したマトリクス分析



弱みで連携・協働する



- 「強み」にはふれない そのままで Let it be !
- 「弱み」を分かち合い 助け合う We help you.
- で、「弱み」は「強み」となる (弁証法)

児童・生徒の成長が地域の成果！

- 最初の教え子たちのこと
- 短期的な成果（学力調査の結果？）
- 中期的な成果（上級学校への進学？）
- 長期的な成果（大人になった児童・生徒の姿？）
- それぞれのストラテジーの違い
- 短期の成果が中期を裏切る、中期の成果が長期を阻害する、そんなことがないように！
- キャリア教育からライフ・マネジメント教育へ
- 自分の人生を自分で責任をもち、経営する
- 生活経営という発想

学校におけるキャリア教育の課題

1. 学齢主義⇒発達段階に応じた指導の難しさ
2. 現在の職業や仕事のみをキャリアとしている点
3. 未来の夢や展望を重視しすぎる点
4. 「今」の大切さを十分に指導していない点
5. 自分の特性や得手不得手、人との違いが未来の自分に直結することを十分教えていない点
6. 何のための仕事か、「志」を指導していない点

拙論「社会教育」2015年5月号掲載

ライフマネジメント力とは何か

(生活経営・人生経営の力)

- 自らの人生、自らの生活や学習を、自ら高め、自ら経営していく力
- 学校の育てる「生きる力」の中核 自覚と責任の啓発
- 進路(望み 願い 目的 目標設定)・見通す
- 生活(日々の営み 姿勢・態度の育成)・心がける
- 学習(学ぶことの支援・啓発 学びの場)・向上する
- 進路・生活・学習の相互関係を自覚し、高める
- そのための**プロジェクト型学校経営と各系プロジェクト**

CM 「なぜ、あの学校は活気に満ちているのか？

ープロジェクト型経営のススメー 」(東洋館出版)参照

ライフ・マネジメント力の育成

進路

生活

学習

夢の達成
自己実現

将来への道筋

学習成果

生活と心構え

★自分の夢・未来への展望・将来への思いをもつ

- ・どうすればなれるか ・どのように実現できるか
- ・何が必要か ・資格や条件は何か
- ・そのために何が必要か ・どのような過程か
- ・とりあえず、今何をするか ・次に何をするか
- ・その後はどうするのか

★学ぼうとする姿勢をもつ

(学習を楽しみ実力をつける。)

- ・学習目標を具体的に決める。
(いつまでに何を目指すか)
- ・計画を立て、それを実行する。
(意志を強くもち、あきらめずに努力する)
- ・結果を振り返り、次に備える。
(反省・評価・次の準備)
- ・授業を大切に
 - ・学習習慣を身につける
(宿題・予習・復習)
- ・予習は分からないことを知ること
- ・復習は学習を振り返ること

★先生とともに楽しい授業を創る

(創意・工夫・改善でより良い授業を)

- ・授業は先生と生徒で創るもの
- ・良い学習集団は良い成績をもたらす
- ・生徒←→先生の間を良くする
- ・皆で面白さを見つけ、それを高める
- ・信頼と敬意のある学習の場にする
(授業でも「あじみそ・マモル」を)
- ・学ぶことへの敬意 ・先生から学ぶ気持ち
- ・よく考え、自分の意見を持ち、表現する
- ・話し合い、教えあいながら学習する
- ・粘り強く・丁寧に・継続して学習する

※ 学習と結びつく学校生活 (心と体の健康 楽しく・明るく・安全・安心な学校生活)

- ・人の話をきちんと聞く(相手を大切にする お互いに話し合える 話して良かったと思える)
- ・授業のルールを守る (チャイム着席・忘れ物をしない・授業を妨害しない・宿題をする)
- ・学校生活のルール・授業のマナー・一人ひとりのモラル(心がけ・心構え)を大事にする
- ・「学びの場」にふさわしい身だしなみ(服装・髪型)しぐさ(姿勢・相手意識・態度)
言葉づかい(場と相手に応じた敬語) (学習の場の緊張感) (学習集団の雰囲気向上)

・地域・保護者は縦糸(長期的展望あり)

長く変わらずに存在 継続と伝統

・教職員は横糸(短・中期的指導の成果)

各教科等の指導 専門性の発揮

・縦と横の織りなす布のような学校が

地域の人(市民)・地域を生み出し、創る

良さを受け継ぎ、より良く変革する

コミュニティの中核となる学校を

「地域の中に創る」ことが大切

スクール・コミュニティ をみんなで作ろう

コミュニティ・スクールの仕組み

共に育てる共育基盤の形成

学校運営協議会

・校長 ・教職員代表 ・住民代表
・保護者代表 ・学識経験者 ・行政職員

情報の
共有

運営への
参画

委員による
協議

家庭・地域の
意見や要望

実働組織

- 三者の協働を重視した実働組織 **課題別コミュニティ**
- 三者の役割分担を重視した実働組織 **学校、家庭、地域部会**
- 地域の学校支援を重視した実働組織 **サポート地域本部**

社会教育・学校教育・家庭教育

生涯学習と社会教育関係者

生涯学習

個人的な学習活動など

教育委員会以外の行政機関等が行う様々な活動

連携

学校教育
(学校教育法)

- ・幼稚園
- ・小中学校
- ・高等学校
- ・大学

など

社会教育
(社会教育法)

- ・青少年教育
- ・成人教育 など
- ・市民として必要な組織的教育活動(体育・レクリエーションを含む)

コーディネーター

・家庭での教育

地域活動
地域連携
地域・学校の
協働

職業教育
企業教育
人材育成

教育協働の要は人

(複数化・チーム化による対応)

活動・参画に導く

参加の状況は
どうか？

ファシリテーター(促進者)として

- 皆が見通しを持つ。
- 目標に対する理解を共有し深める。
- 仕事のブレイク・ダウンを工夫する。

仕事を支える

今、何をすれば
より一層活性化
するか？

コーチ(支援者)として

- 取り組み状況をしっかり見とる。
- タイムマネジメント(進行管理)を行う。
- 意識・意欲の向上を図る。
- コミュニケーション場面を生み出す。
- 可能な限り情報を共有する。

取り組みを
意味づける

皆が仕事を振り
返り、自己評価
するには？

インタープリター(仲介者)として

- 職務の意義や意味を一緒に考える。
- 取り組みの成果を吟味する。
- 各自の方法を共有する。
- 仕事の手順・工夫・方法を言語化する。

「次世代の学校・地域」創生プラン

～中教審3答申の実現に向けて～

平成28年1月25日
文部科学大臣決定

答申③←教育再生実行会議第7次提言

答申②←教育再生実行会議第7次提言

答申①←教育再生実行会議第6次提言

教員改革

(⇒資質向上)

養成・採用・研修を通じた
不断の資質向上

現職研修改革

- ・管理職研修の充実
- ・マネジメント力強化
- ・ミドルリーダー育成
- ・免許更新講習の充実
- ・チーム研修等の実施
- ・英語・ICT等の課題へ対応

採用段階の改革

- ・採用試験の共同作成
- ・特別免許状の活用

養成段階の改革

- ・インターンシップの導入
学校現場や職場を早期に体験
- ・教職課程の質向上

教員育成指標

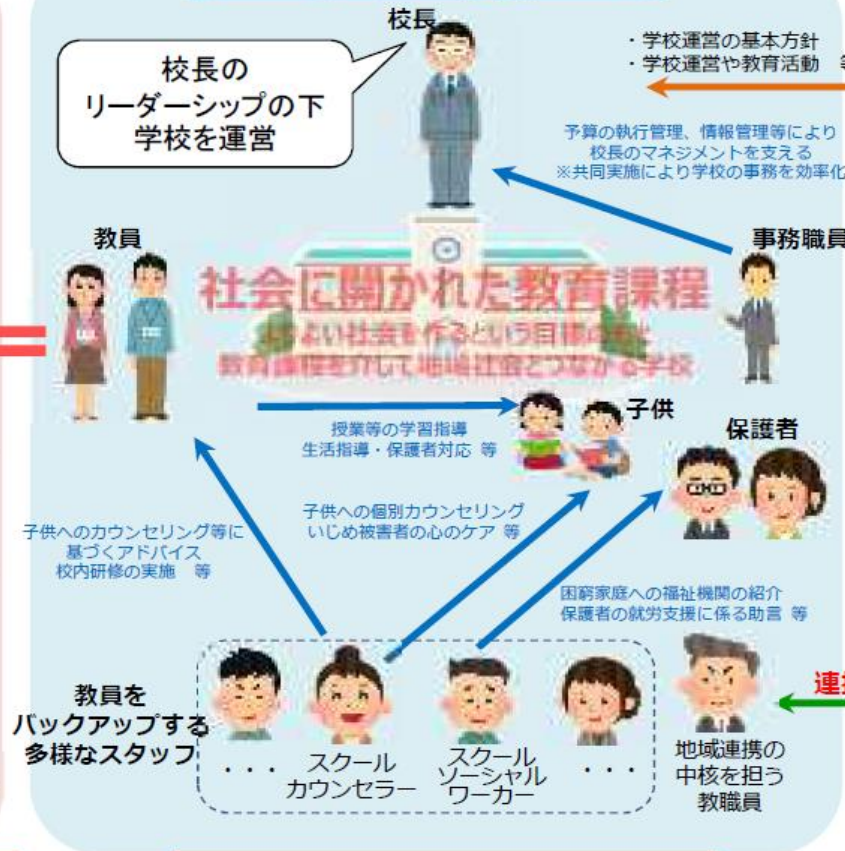
←都道府県が策定

育成指標策定指針

←国が大綱的に提示

学校の組織運営改革

(⇒チーム学校)

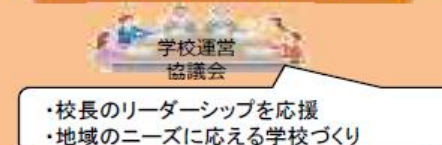


要・法改正：学校教育法、地方教育行政法

地域からの学校改革・地域創生

(⇒地域と学校の連携・協働)

コミュニティ・スクール



要・法改正：地方教育行政法

地域学校協働本部



地域の人々が学校と連携・協働して、
子供の成長を支え、地域を創生

学校を核とした地域の創生
次代の郷土をつくる人材の育成、まちづくり



「地域学校協働活動」の推進
・郷土学習・地域行事・学びによるまちづくり
・放課後子供教室・家庭教育支援活動 等

要・法改正：社会教育法

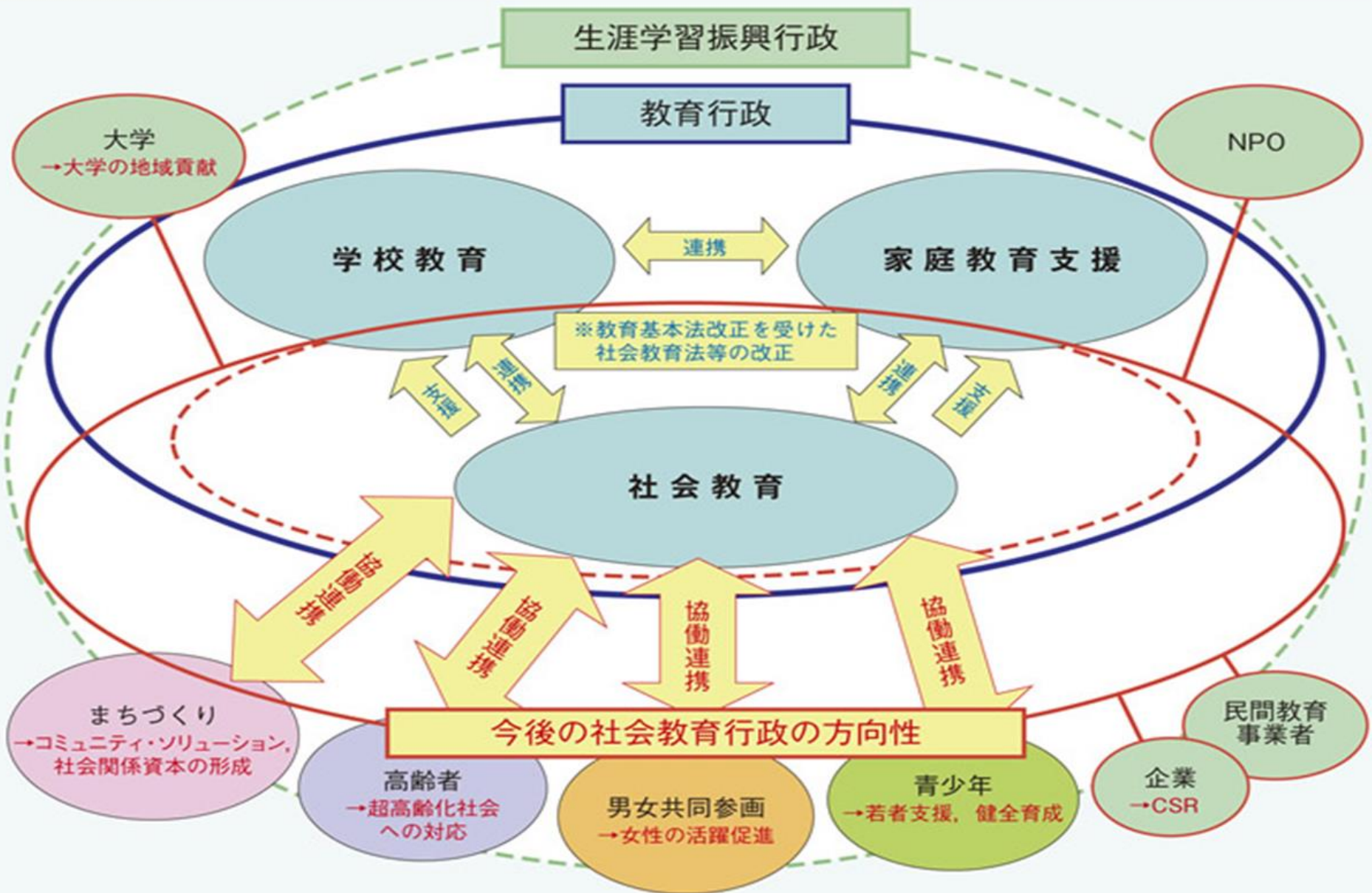
「次世代の学校」の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実

子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現

学校教育と社会教育との関係の急速な変化⇒生涯学習としての教育へ

図表 2-2-1

今後の社会教育行政の再構築のイメージ図



新宿区立四谷中学校の実践研究

- 新宿区立四谷中学校 HP

<http://www.shinjuku.ed.jp/jh-yotsuya/home.html>

研究発表会資料 HP

<http://www.shinjuku.ed.jp/jh-yotsuya/bcd44353.pdf>

- 学校運営協議会 HP

<http://www.shinjuku.ed.jp/jh-yotsuya/index111111112.html>

- 学校応援団 HP

<http://www3.hp-ez.com/hp/y-ouendan/page2>

参考

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/ct/other000056200/26-2siryou3.pdf>

コミュニティ・スクール



スクール・コミュニティへ

- <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/merumaga/manabimagajin/siryoku/281013schoolcom.pdf>
- 何もかもが学校に任されてしまう現実からの脱却
- 学校ができないことを社会教育（生涯学習）で
- 学校と社会教育（事業）で教育コンテンツの開発
- 中学校では、部活動 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 各教科及び横断的な学習 の順で
- 小学校では、読書活動・英語教育・プログラミング教育 体験的学習 放課後の居場所と楽修！

今、私たちに何ができるか？

- 学校選択制(選ばれる特色ある学校づくり)
 - ⇒ 地域学校協働の推進(共に創る地域の学校)
- 学校教育と社会教育との連携と協働
 - ⇒ 学校でできないことを社会教育で実現
- 生涯学習として、地域(学・社)で子供を育てる
- 小学校における放課後居場所・土曜学習の実践
- 中学校における部活動対応・放課後学習塾
- 高等学校における地域との連携・協働
- 大学におけるインターンシップと地域協働活動
- 老朽化しつつある公的施設の統合と高機能化⁴⁶

小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）

平成28年6月28日
教育課程部会
教育課程企画特別部会
参考資料2

プログラミング教育の必要性の背景

- ・近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。
- ・自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働き之恩恵を受けており、これらの便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかの指摘もある。

プログラミング教育とは

子供たちに、**コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということ**を体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「**プログラミング的思考**」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、**どのような動きの組合せが必要**であり、一つ一つの動きに対応した記号を、**どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善**していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを**論理的に考えていく力**

プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

【知識・技能】

（小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

【思考力・判断力・表現力等】

発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

【学びに向かう力・人間性等】

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成する**プログラミング教育を行う単元**について、**各学校が適切に位置付け、実施**していくことが求められる。また、**プログラミング教育を実施する前提**として、**言語能力の育成や各教科等における思考力の育成**など、全ての教育の基盤として長年重視されてきている資質・能力の育成もしっかりと図っていくことが重要である。

【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用的ICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

【実施のために必要な条件整備等】

- （1）ICT環境の整備
- （2）教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- （3）指導体制の充実や社会との連携・協働

学校と社会を生涯学習でつなげる

社会に開かれた教育課程

学校教育

各教科等
英語学習
プログラミング学習
読書活動
教科横断型
学習

指導者養成

社会教育

学習教室
開設

カリキュラム・マネジメント

「主体的・対話的で深い学び」としての プログラミング学習



プログラミングは国語や英語と同じ「言語」だということです。いわば、機械を操作し、動かすための言語ということです。

国語教育では、「順序立てて考える力」、「感じたり想像したりする力」、「伝え合う力」などが求められていますが、まさに、プログラミング学習もそれが求められることとなります。小学校でのプログラミング教育は、このような広い意味での「ことばの力」をはぐくむものだと言えます。

中学校、高校、大学でのプログラミング教育はより専門的かつ工学的なものになるのですが、小学校で求められるプログラミング学習は各教科で行われる「ことばの力」を育成し、それぞれの教科の内容を補充するツール(道具)として機能します。

ご協力、ありがとうございました。

連絡先: 玉川大学教師教育リサーチセンター TEL042-739-8116 Fax:042-739-8857

(一社)教育デザイン研究所 新宿区四谷1-18高山ビル

URL <https://educational-design.jimdo.com/> <http://edri-tokyo.com/>

TEL03-5341-4227 Fax 03-4332-2338

事務局: info@edri-tokyo.com 個人: yoshidak13@goo.jp

教師育成塾(小・中・高) プログラミング教育+α塾(能力の開発)

英語サロン: 月一度水曜日開催(発信型英語学習) 異業種交流会

【主な著書・編著・連載】

- 「なぜ、あの学校は活気に満ちているのか? プロジェクト型経営のススメ」 東洋館 2015年3月 4刷
- 「なぜ、あの先生は誰からも許されるのか? 同僚・上司、子ども・保護者と上手につきあう」 東洋館 2013年3月 3刷
- 「これならできる! 楽しい読書活動」(編著)学事出版 2015年3月3刷
- 「これならできる! 図書を活用した楽しい学習活動 小学校編 探究的な学びを促す教科別事例集」学事出版 2017年6月(編著)
- 「主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の授業デザイン アクティブ・ラーニングの理論と実践」学文社 2016年11月(編著)
- 「小学校プログラミング教育がわかる、できる 子どもが夢中になる各教科の実践」
学事出版 2017年7月出版予定
- 「2018年度版 必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策」玉川大学教師教育リサーチセンター
時事通信社 2016年10月(監修) 2019年度版本年10月発行予定
- 「映像で学ぶ校内研修教材 DVD No.3~No.5(監修)」学事出版 2014年12月
- 「社会をつくる学びを提案する 社会教育」一般社団法人日本青年館 「スクール・コミュニティをみんなで創ろう」
2013年6月から連載中
- 月刊「教員養成セミナー」時事通信社出版局 「おすすめしたい! 映画&ドラマ」2015年4月から連載中
- 月刊「プリンシプル」学事出版 「校長のコミュニケーション・ストラテジー」2017年4月から連載中